

戦闘機から 機銃掃射を受けて 逃げた思い出

馬淵 尚子 (80歳)
(堺市北区百舌鳥陵南町)

昭和20年7月10日に堺に大きな空襲がありました。その頃、私は津久野小学校の1年生でした。今では知る人も少ないと思いますが、当時は津久野ではなく、踞尾(つくお)小学校と呼ばれていました。

その日は、空襲警報が出たので、いつものように校庭に全小生が集められ、先生から訓示を受けた後、早く家に帰ることになりました。初めてのことではなく、それまで何回か空襲警報が出て早く帰ることがありましたが、何事も起こっていませんでした。

最初は先生からの言いつけを守り、寄り道せずに家に帰っていましたが、小学校1年生で遊びたい頃です。いつも何事も起こっていませんでしたので、同級生3人の女の子と高学年のお姉ちゃんと一緒に学校を出たものの、真っ直ぐに家に帰らず、川の土手あたりで一緒に遊んでいました。

しばらく遊んでいると、飛行機の飛ぶ音が聞こえ、見上げると銀色に光る戦闘機が1機こちらに向かってくるのが見えました。びっくりして、逃げなければと体を動かしたとたん、「バリッ、バリッ、バリッ、バリッ」と機銃掃射の音が聞こえ、体の横を機銃掃射の弾が

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

私の戦争体験 (27)

すめました。怖くて慌てて友達もみんな土手の影に隠れました。幸いに誰も傷つくこともなく、その日は遊びを切り上げて家に帰りました。

次の日、同じように空襲警報が出たので早く帰ることになりました。前の日に怖い目にあっただにもかかわらず、小学1年生ですら遊ぶことの方が優先で、もう戦闘機は来ないだろうと、昨日と同じように友だちと川で遊んでいました。

すると、気づいて見上げると、また戦闘機が1機、近づいてくるではありませんか。

昨日のことを思い出し、大慌てで土手の影に逃げました。また、同じように戦闘機からの機銃掃射の音が聞こえました。

その日も友だちもみんな無事でしたが、それからは空襲警報が出たら、まっすぐ家に帰るようになりました。

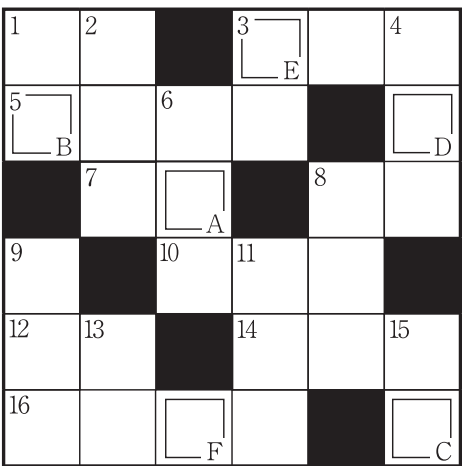
あの時のアメリカ人の戦闘機乗りは若かったと思いますが、どういう心情で民間人の子供を攻撃したのでしょうか。戦争は恐ろしいもので、平時では何でもない人が戦争になると理性を失ってしまうのかもしれない。

あの時は単に子どもを驚かすためだけで、狙いは外れているので、子どもは大丈夫だというのがわかっていたかもしれない。それとも、後年、あの時の子どもは大丈夫だったかと思いにしながら余生を過ごしたのかも知れません。戦争はいやです。

お楽しみクイズ クロスワードパズル

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、
あて先／〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにて郵送ください。
●しめきり／2019年3月13日(水)消印有効
●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード5000円分)を。賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。ご了承ください。

カギを解き、二重ワクに入る
文字をA B C順に並べてできる
言葉は何?



タテのキー
① 三つ時
② つて。採用
③ 春 秋冬

④ 首の超長い動物
⑥ を賭けた闘い
⑧ 決心。を固める
⑨ 多様な生物
⑪ 婚姻関係や養子縁組を解消する
⑬ 良可の3段階評価

⑮ 液体気体への変化
「E」のキー
① 石のにも三年
③ ポプラを通る風
⑤ 小さな運動
⑦ 老いらく
⑧ 事柄。そのについて相談があります
⑩ 公立の対
⑫ たる目的
⑭ 活動する気力。を養う
⑯ 力強くすぐれた弁舌

●12月号の答
「トシコシバ(年越しそば)」
●応募数/89通

俳句

参り終え八重の山茶花なほ白し

～奈良の白毫寺の参道で一本の山茶花の花が咲いているのに気がつきました。凛とした静けさの中でその白さが際立って見えました。～

初春や卒寿の年にあと一年

帰り道おでん香(かおり)で足急ぐ

～換気扇からおでんの香がして早く家に帰り、晩酌をして暖まりたくなりました。～

川柳

三流だカジノ狂奔福祉減

千支終(じまい)亥の子が最後に大あばれ

短歌

朱に染まる夕焼け空を今見よと

厨の嫁を呼んでおりけり

＊句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
＊俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2019年3月13日(水)です。
＊特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

平和の尊さを引き継いでいくために 戦争体験をお寄せください

機関紙編集委員会では、戦争を知らない世代に平和を受け継いでいくためにも、戦争体験を募集しています。戦後73年目を迎え、戦争の経験者が少なくなっていく中で戦争体験が語られることも少なくなり、貴重なものとなっています。編集委員会に寄せられるお手紙にも戦争体験は多くの反響があります。

お寄せいただいた戦争体験を冊子にまとめて、形に残していくことも検討しています。

ぜひ読者の皆さんの戦争体験をお寄せください。寄稿される方は800字位を目安にお願いします。

お問い合わせ 友の会事務局 (TEL) 072-244-8061

会員さん 紹介 ③7

ふくいずみ支部
はぜ 幸男さん



泉北ニュータウン生まれで、現在は西区草部に住んでいます。友の会には、総合病院で入院したことがありまして、その時に入会を勧められました。「あれから20～30年経過したのかな。わからんわ。とにかく長い付き合いやわ」と。健康法としては日課として体操と毎日(雨や雪

外) 1万5千歩を歩いておられます。以前、なすの会(糖尿病患者会)の会長をされていた時からノルディックウォーキングもやっておられ、現在も会を作って活動されています。

また趣味として南米のたて笛「ケーナ」という楽器の演奏をしています。この楽器はインカ帝国時代、人の骨などでつくられたもので遺跡から出てきたものです。現在は竹製を使っており、毎週第2・4木曜日に総合病院で講師もされています。

最後に「同仁会(友の会)の人達はいろいろな事をしてますよね。感謝します。これからも今のままの存在でいてくれればうれしいです」と。

(文・写真 機関紙編集部)